

.

スウェーデン北部、ヨックモック・コミューンの小さなポルユス駅に設置しているオーロラカメラが、今シーズン初めてとらえたオーロラです。北極圏では夏至を過ぎても長い間、夜空が十分に暗くならないため、オーロラが活動していても見ることはできません。毎年8月下旬になってようやく夜の闇が戻り、カメラにも最初の光が写り始めます。ただ、この時期の「初オーロラ」は、たいてい空に溶け込むような希薄な、ごくぼんやりしたものです。

ところが今年の初オーロラは見事でした。まだ明るさの残る夜空、それも月明かりに照らされた条件にもかかわらず、緑色の光の帯がくっきりと姿を現しました。弧を描いたオーロラから一部が垂れ下がるように伸び、淡いながらも光の濃淡まで確認できます。静かな湖面、駅の線路やホームとともに写り込んだ光景は、北極圏に短い夏の終わりと、オーロラの季節の到来を告げているようです。

9月には、カメラの点検やメンテナンスなどを目的に、今年もこの地へ渡航する予定です。その頃のポルユスは夜の時間がさらに長くなり、オーロラ観察には絶好の季節を迎えます。冬になれば湖は厚い氷と雪に閉ざされますが、9月ならまだ湖面は凍っていません。風のない夜、天空に舞う緑の光が鏡のような湖面にも映る——そんな「二つのオーロラ」を、今度はカメラ越しではなく、自分の目でしっかりと眺めてみたいものです。

(2026 年 8 月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測)

